



夢への架け橋



国 籍	中国
職 種	介護
実習実施者	株式会社レイクス21
監 理 団 体	PNJ 事業協同組合

姜 岩 松

JIANG YANSONG

三週間前の七日の深夜、私を乗せた飛行機が羽田空港に着きました。空港の出口に立って、「自分の夢はここから始めるんだ」と、心の底まで響き渡りました。

介護をする為に、日本に行きたいと、家族に話したら、もらった返事はいつも反対でした。人の面倒を見ることを夢とするのはおかしいじゃないかと、馬鹿にされたことも多かったですが、介護という仕事を誤解している故に発した言葉でしょう。

未だに釈然としない事があります。数年前に他界した婆ちゃんが寝たきりの時期がありました。今思うと、家族である私達が婆ちゃんのもう一度社会復帰のチャンスを奪ったかもしれません。寝たきりの前によく聞いた話がありました。「婆ちゃんは今もう年だから、代わりにやってあげて」と。さり気なく出たこの優しい一言、婆ちゃんの寝たきりにつながっているかもしれません。

寝たきり当初は、病院の先生に診断されて、不自由がないように、体周りの面倒をしっかりと見るようにと、勧められた記憶があります。考えて見ると、先生の言葉を勝手に誤解して、婆ちゃんのすべてに関して、介助し始めました。

介護を教えてくれた玉土先生によりますと、「自己流」って呼ばれているのです。利用者に百害あって、一利無しと言えるほど、最悪なやり方でした。

後悔して止まないです。

介護に関して、専門的な知識を勉強し始めてます。数年前に教えてくれる人がいれば、今のように悔やむなんかににはなかったでしょう。自分のような無知で家族を苦しめる人が出ないように、今度は自分が努力して、日本式介護を中国に拡散することに精を尽くしたいと決意しました。

日本に来て、僅か三週間しか経てないです。介護の基本として、「人間の尊厳」と「自立支援」この数文字の深さに感心しました。玉土先生がよく言いました、「利用者に合わせて行動する」と。誰でも言える言葉ですが、本当にできる人はほんの少ししかいないでしょう。これを日本式介護の真髄と言っても過言ではないと思います。ふと「石の上にも三年」という諺が浮かんできた。三年の実習生としての頑張りはどこまでできるか、楽しみにしています。

豪語を語った以上、それなりに努力しないと、ただの大口になるでしょう。初めて夢を持つようになったのも、介護のお蔭です。介護よりやりがいがある仕事は少ないと思います。仕事しているだけで、人に役立って、人に感謝され、笑顔を取り戻して、最高です。いつか必ず、介護を冷たい目で見ている人たちに介護の魅力を見せるとしましょう。

戦ムソの豊臣秀吉が言ってた、「皆で笑って暮らせる世、創ろう」と。最後に、この言葉を借りて、言いたいことがあります。私達介護職は、誇りを持って、皆で笑って暮らせる世、作っていきます。